

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2020年 6 月 18 日

秋田県知事 殿

提出者

住 所 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山字尾樽部60番-1

氏 名 小坂製錬株式会社 代表取締役社長 仲 雅之

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0186-29-2700

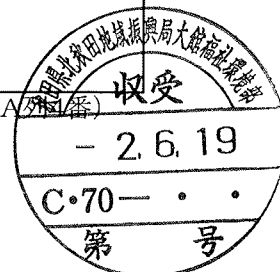
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	小坂製錬株式会社 小坂製錬所
事業場の所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山字尾樽部60番-1
計画期間	2019年4月～2020年3月

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

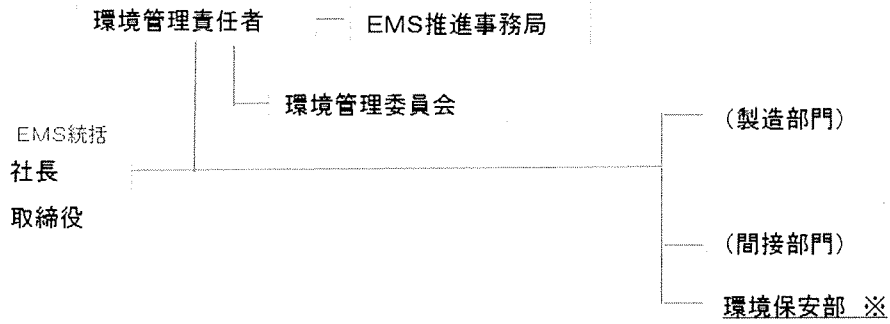
① 事業の種類	非鉄金属第一次製錬・精製業
② 事業の規模	売上高 13,428百万円
③ 従業員数	331名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1参照

（日本工業規格 A 7911番）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



※廃棄物に関する業務、マニフェスト管理 他

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 別紙2参照

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・委託処理会社の指示に応じて分別を実施
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・委託処理会社の指示に応じて分別を実施

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2019 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	77.99 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラ	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	100 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 固形燃料化増処理（外部委託を減少させる）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（ 年度）実績】			
①現状	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
【目標】			
②計画	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項 別紙3 参照			
【前年度（ 年度）実績】			
①現状	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1 産業廃棄物の一連の処理の工程



別紙 2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度(2019年度)実績】

産業廃棄物の種類	(単位 t)									
	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(非飛散性アスベスト)	がれき類	廃酸	水銀使用製品
排出量	0.02	14.72	172.78	580.86	7.755	153.19	7.32	81.05	14.84	0.592

(これまでに実施した取組)

- ・固形燃料化設備導入
- ・フレコンバック、PP配管などの繰り返し使用による削減
- ・工程内で使用しているフレコンバックを専用容器に代替

①現状

【目標】

産業廃棄物の種類	(単位 t)									
	汚泥	廃油	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(非飛散性アスベスト)	がれき類	廃酸	水銀使用製品
排出量	10	13	180	500	5	100	7	80	5	0.5

(今後実施する予定の取組)

- ・上記取り組みを継続して実施する。
ただし、現在設備の解体工事を進めており、その際に発生する廃棄物(汚泥・金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器(非飛散性アスベスト))により増減する可能性がある。

②計画

産業廃棄物の処理の委託に関する事項
【前年度(2019年度)実績】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ類	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(非飛散性アスベスト)	がれき類	廃酸	水銀使用製品
全処理委託量	0.02	14.72	94.79	580.86	7.755	153.19	81.05	14.84	0.592
優良認定処理業者への処理委託量	0.02	14.72	94.79	580.86	7.755	152.61	43.13	14.84	0.592
再生利用業者への処理委託量									
認定熱回収業者への処理委託量									
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									

①現状

(これまでに実施した取組)
グループ会社での中間処理・最終処分による適正処理

【目標】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ類	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(非飛散性アスベスト)	がれき類	廃酸	水銀使用製品
全処理委託量	10	13	80	500	5	100	7	5	0.5
優良認定処理業者への処理委託量	10	13	80	500	5	100	7	5	0.5
再生利用業者への処理委託量									
認定熱回収業者への処理委託量									
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									

②計画

(今後実施する予定の取組)

グループ会社での中間処理・最終処分による適正処理
ただし、現在設備の解体工事を進めており、その際に発生する廃棄物(汚泥・金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器(非飛散性アスベスト)がれき類)により増減する可能性がある。